



# 一般社団法人日本スーパーマーケット協会

## 平成28年10月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	56,618,314 万円	100.0%	103.9% (100.9%)	54,345,892 万円	102.1% (99.0%)
食 料 品	48,113,008 万円	85.0% (85.9%)	104.6% (101.5%)	46,286,704 万円	102.5% (99.3%)
農 産	7,777,684 万円	13.7% (13.7%)	108.6% (99.9%)	7,480,918 万円	106.3% (97.7%)
水 産	4,419,840 万円	7.8% (8.0%)	101.7% (99.4%)	4,252,482 万円	99.6% (97.3%)
畜 産	5,980,199 万円	10.6% (10.5%)	103.0% (100.5%)	5,737,659 万円	100.5% (97.9%)
惣 菜	5,544,644 万円	9.8% (10.0%)	105.1% (102.7%)	5,309,984 万円	102.5% (100.0%)
日配食品	10,866,573 万円	19.2% (19.5%)	104.7% (102.8%)	10,462,459 万円	102.9% (100.7%)
加工食品	13,524,068 万円	23.9% (24.2%)	103.7% (102.1%)	13,043,202 万円	101.9% (100.2%)
生活関連	3,609,008 万円	6.3% (6.2%)	101.6% (98.8%)	3,499,722 万円	100.9% (98.2%)
衣 料 品	1,749,046 万円	3.1% (2.6%)	98.5% (96.3%)	1,678,105 万円	99.4% (96.8%)
そ の 他	3,147,252 万円	5.6% (5.3%)	99.8% (97.0%)	2,881,361 万円	99.4% (96.5%)

### ② 数 値

全店総売上高	56,618,314 万円	店 舗 数	4,660 店舗
総売場面積	9,180,942.5 m <sup>2</sup>	総従業員数	251,371 人

店舗平均月商	12,149.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,840.8 円 (100.1%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.2 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,970.2 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.4 万円 (19.5 万円)	パート比率(前月)	77.7% (77.9%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 10月の天候環境は、西日本で曇りや雨の日が多く、月間の日照時間がかなり少なかった一方、東日本ではまとまった雨となることが少なかった。平均気温は東・西日本でかなり高かった一方、北日本では低く、北海道地方では下旬に各地で雪となった
- ・ 昨年と比べて日曜日が1日多く、売上へはプラスの影響を与えた
- ・ 生鮮品の相場状況は、9月からの日照不足等の影響で野菜全体が高値傾向であったほか、牛肉は和牛が引き続き高値で推移した
- ・ 平年より高い気温と野菜の相場高騰の影響で、各部門の鍋物商材は伸び悩んだ

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・ 野菜は一部を除き、相場が高騰した。販売点数は減少したものの、単価上昇により売上は伸びた
- ・ 野菜が高いことから、価格が相場で左右されないカット野菜やもやしのニーズが増えた
- ・ 気温の影響から、サラダ商材の動きが良かった一方、きのこ類等の鍋物商材は低調であった
- ・ 果物は、食味が良かった極早生みかん、旬の柿が好調であった一方、ぶどう、りんごは好不調が分かれた。輸入果実では、キウイフルーツが好調を維持している

### ○ 水産

- ・ 刺身が堅調であったほか、健康志向ニーズによる海藻の売上伸長が続いている
- ・ サンマは、相場高と魚体のサイズが小型中心となり、不振であった
- ・ 不漁による入荷不安定な状況や相場高の影響で、生するめいか、生秋鮭が不振であった

### ○ 畜産

- ・ 牛肉は焼肉、ステーキの好調により売上を伸ばした。一方、相場高が続く和牛の販売環境は厳しく、利益面へのマイナス影響が出ている
- ・ 豚肉、鶏肉が不振であった。気温環境や野菜相場の高騰により鍋需要が低く、豚肉のうす切り肉や鶏肉の切身などの動きが鈍かったことが要因
- ・ 加工肉は、WHOの研究機関による発がんリスクの発表から1年が経過するが、依然として回復傾向はみられない

### ○ 惣菜

- ・ 炊き込みご飯、カキフライなど、季節素材を使用した商品の取組で成功している事例が多い
- ・ 行楽関連の需要もあり、弁当が好調であった
- ・ 野菜が高いことから、サラダや和惣菜が売上を伸ばした

○ 日配・加工食品

- ・ 日配は、気温環境によりアイスクリーム、飲料が売上を伸ばした一方、練り物等のおでん商材は不振であった。ヨーグルト、乳酸菌飲料は好調を維持している
- ・ 加工食品は、相場高により単価が上昇した米のほか、カップめんの新商品が好調だった
- ・ 野菜が高いことから、冷凍野菜、野菜飲料、漬物の浅漬けが好調であった

「ハロウィーン、その他マーケット」の状況について

- ・ ハロウィーンでは、専用パッケージの菓子が売上を伸ばしている。年々、マーケットボリュームが拡大する中、9月初旬から展開している事例が多い
- ・ 秋の行楽関連で弁当やおにぎり、飲料が好調であった

以 上